平成 30 年度

琉球大学

教育学部 美術教育専修・教育実践学専修

大学院 教育学研究科 美術教育領域

卒業・修了展

ごあいさつ

本展は、本学で美術教育を学ぶ学生の研究成果を、広く学外に紹介する展覧会です。今年度は学部生 6 名 (髙山楓、内間汐梨、伊計佳奈子、宮里優花、知名美咲、喜屋武姫香)、大学院生 1 名 (亀島英莉) の作品を展示いたします。

学生たちは自ら設定した研究テーマを、定期的に行われる中間報告会や担当教員らとのディスカッションを契機としながら、約一年間をかけて探求してきました。このような熟成期間を経て仕上がった展示作品は、今まさに生まれたばかりの瑞々しい魅力に満ちています。それは学生たちのチャレンジの結晶であり、私達を新たな時代へと案内してくれる道しるべでもあるでしょう。各々の清新な感性や伸びやかな取り組みをご覧いただければ幸いです。

最後になりましたが、本展開催にあたりご協力をいただきました関係者の皆さまに、心よりお礼申し上げます。

美術教育専修 4 年次指導教員
亀井洋一郎

作品
研究題目・研究概要

— 教育学部 美術教育専修 —

髙山　楓	TAKAYAMA Kaede
内間　汐梨	UCHIMA Shiori
伊計　佳奈子	IKEI Kanako
宮里　優花	MIYAZATO Yuka
知名　美咲	CHINA Misaki

— 教育学部 教育実践学専修 —

喜屋武　姫香	KYAN Himeka

— 大学院 教育学研究科 美術教育領域 —

亀島　英莉	KAMESHIMA Hirari

髙山　楓　　TAKAYAMA Kaede

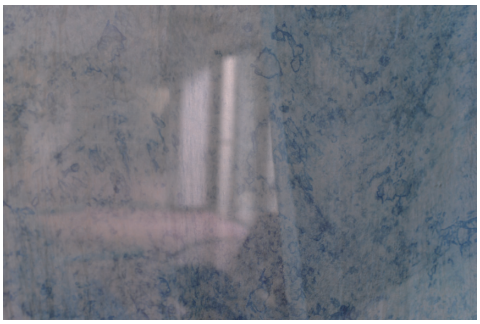
▲▶「**あいのある空間**」（部分）
藍染、絹、木綿
サイズ可変

藍を用いた色彩表現

海は、どこまでも果てしなく続く空間を想像させる。
その果てしなさに無限の可能性と不可思議な世界の魅力を感じる。海が生み出す波の形や揺れ、その連続性は、どこまでも続く世界に飛んでいきそうな私を引き戻し、落ち着かせてくれる。

同じような感覚を藍染の工程で感じる。
藍の染液で満たされた容器は、底が見えない。表面にあるギラギラとした結晶を壊し、暗く冷たい染液に静かに布を浸していく。深く沈んだ両手の先は、どこまでも続いているのではないかと想像する。私の空想と共に引き上げられた布は、ゆっくりと深い緑から青へと変わる。この過程が、そして染められた布の風で揺れ動く様が、まるで海にいるかのような安堵を私に与えてくれる。

多忙と喧騒の生活を送る中、少しの間、
藍で染められた布達に心をあずけ、
ゆったりとした時の流れと安らぎを感じたいな ...



◀「**あいのある空間**」（部分）
藍染、絹、木綿
サイズ可変

内間　汐梨　　UCHIMA Shiori

▲「**息ざし、たゆたう**」（部分）
布、植物
60 × 250㎝　4枚

染める・染まる・染まったもの

植物の持つ、秘めた色の存在を知った。
それは時に繊細で、時にか弱く、
時に力強い生命の色だった。

植物から色が染み出し、滲み、防染しながら
布を彩っていく過程は、私の喜びそのものだ。

しかしそれらは永遠にとどめることは出来ない。
常に変化し、やがて自然へと帰還していく。
その気配と痕跡を残して。

▲「**burn 及び burn のためのアプローチ**」（部分）
布、植物
40 × 30㎝

▲「**そこはかとなく**」（部分）
布、植物
10 × 10 × 10㎝

伊計　佳奈子　　IKEI Kanako

▲「　」（部分）
ミクストメディア
サイズ可変

落ち着ける場所・空間の構成要素について

それはたとえば

自転車の練習をしているとき
支えてくれていた手が離れていた事に気づくまでの間

見えてもないし
触れてもないのに
確かに
背中越しに感じていたもの

帰る家もないし

会いたい人もいないけど

だいじょうぶ

それでも世界は美しい

宮里　優花　　MIYAZATO Yuka

▲「**日常**」**セット**　陶器

鉢　h7 × w17 × d10cm　小鉢 A　h6 × w10 × d10cm　小鉢 B　h7 × w10 × d11cm
皿 A　h7 × w11 × d13cm　皿 B　h7 × w14 × d13cm　カップ A　h6 × w11 × d9cm
カップ B　h4 × w13 × d10cm

▲「**まるくなる**」 陶器

h8 × w15 × d15cm

▲「**まるくなる**」**セット**　陶器

鉢　h8 × w14 × d15cm　小鉢 A　h6 × w11 × d11cm
小鉢 B　h5 × w13 × d13cm　小鉢 C　h4 × w8 × d9cm
大皿　h6 × w21 × d17cm　カップ　h5 × w12 × d10cm

物語から生まれる愛らしい「食器」の世界

私の感じる ” 愛らしい “ を表現したい。

普段、何気なく感じていた「愛らしいな、癒されるな」と思う感覚は、
物語を絡ませることで生まれてくることに気付いた。

私にとって最も身近で、愛らしいものとは……。

飼猫の「ゆきんこ」と、一人のある「女の子」をモチーフにした、
見ても使っても「愛らしく、癒される」
そんな物語と食器類が織りなす世界観を
味わってほしい。

▲「**さんぽみち**」　陶器
h5 × w10 × d11cm
（左 : 表面，右 : 裏面 ）

知名　美咲　　CHINA Misaki

▲「**匂いの記憶**」　匂いの瓶（15 本）

知名　美咲　　CHINA Misaki

匂いから想起される記憶の探求

“ この匂い ”

言葉にできないけど、なんだか懐かしい、あの時に嗅いだ事があるような…

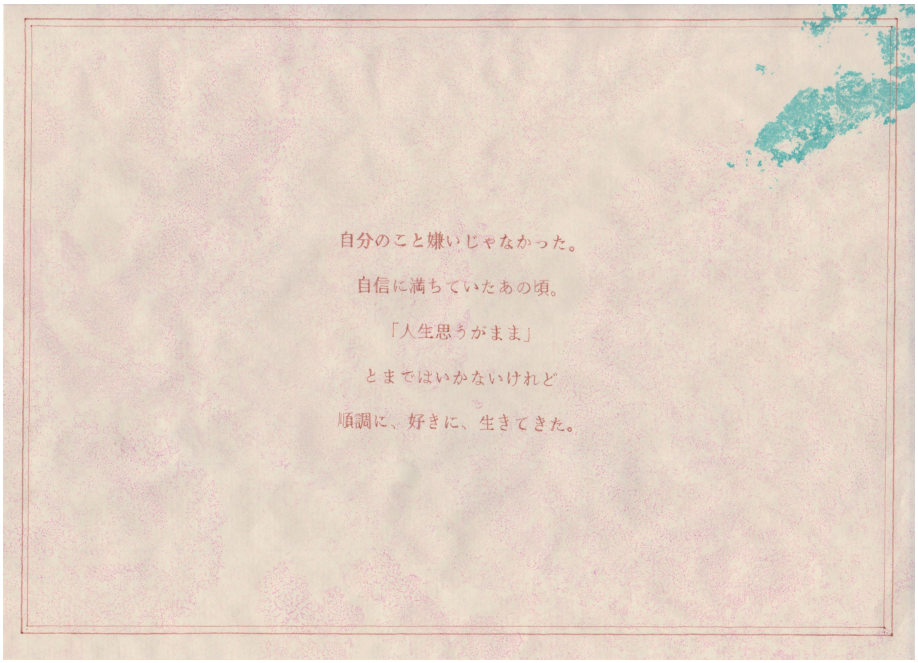
匂いによって、あの日の記憶やある人の面影が “ ふっ ” とよみがえる。

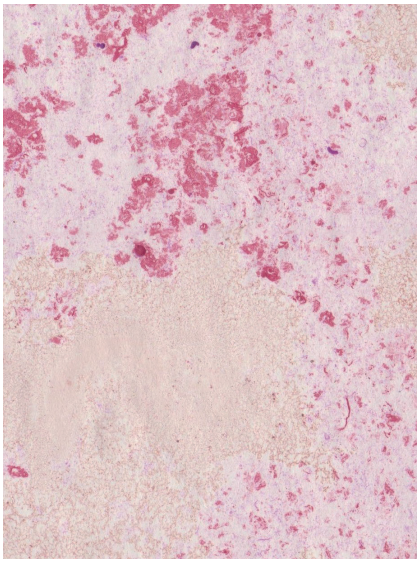
目に見えない、でも人の心を動かす香り。

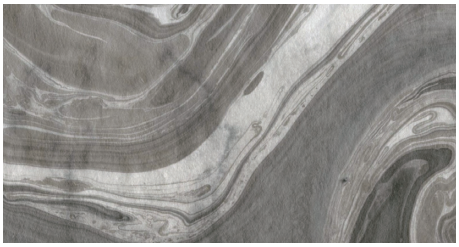
なんだか不思議な “ 匂いの世界 ”

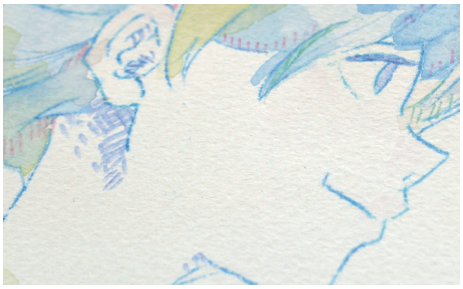
▲「**匂いの記憶**」　記憶の冊子（ 13 冊のうち、「黄色いふんわりとした香り」）

喜屋武　姫香　　KYAN Himeka









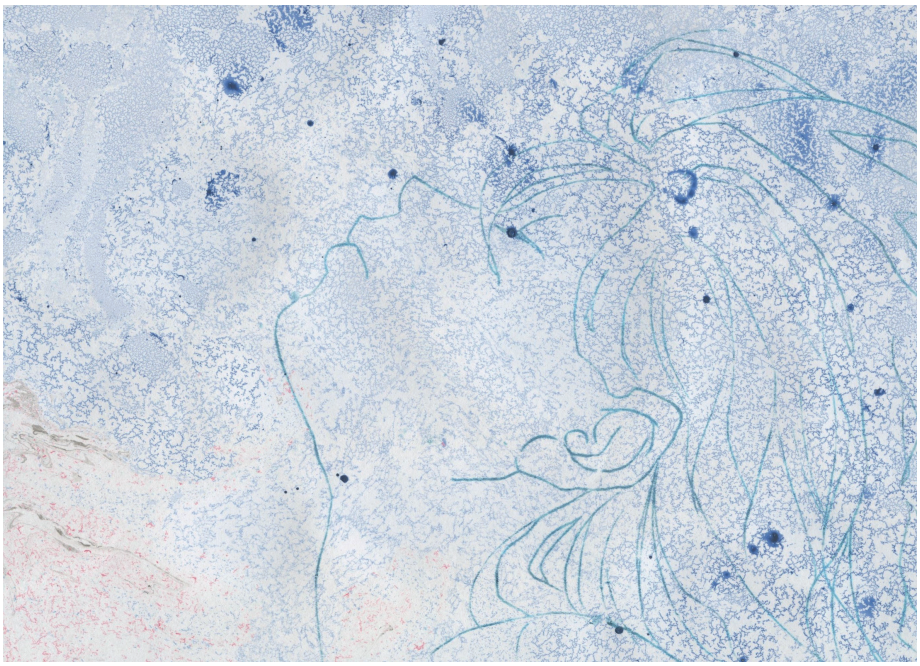
自分らしく生きる
－オリジナル絵本の制作を通して－

自分らしく生きる、とはシンプルだが難しい。

この 1 年考え続けてきたが、まだ納得のいく答えにはたどり着けない。

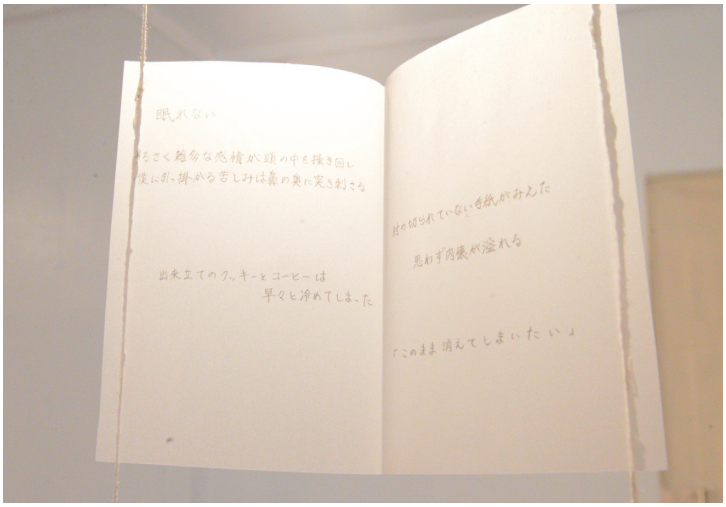
けれど、今の私にできること、したいことをやり続けていくしかないのだ。

今の私にとっての「自分らしく生きる」を見てください。



▲「**タイトル未定**」
クロッキー紙、画用紙、和紙
25.6 × 18.4cm　49 ページ

亀島　英莉　　KAMESHIMA Hirari



▲ 展示風景より（ 部分 ）
言葉、葉、ガーゼ布、糸、ノート、記憶

「混沌とした、記憶あるいは白昼夢」

混沌とした
記憶
あるいは白昼夢

引き出されるのは
わたしを形作る“欠片(かけら)”たち

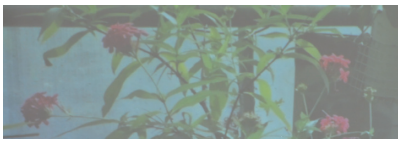
“欠片”が
ひとつひとつ見え隠れし
混じっていく

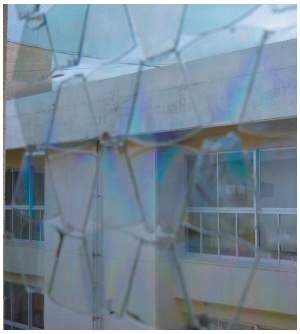
苦しみ、心地よさ、焦り、安堵、痛み…
混沌として
無骨な形

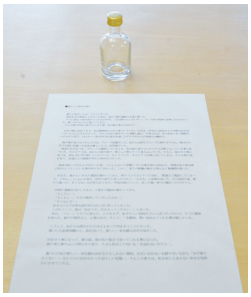
わたしであってわたしじゃない
かげのようでかげじゃない
あいまい、でもそこにいる

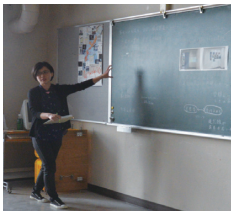
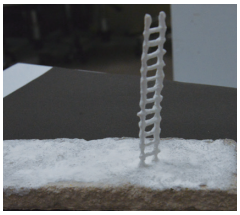
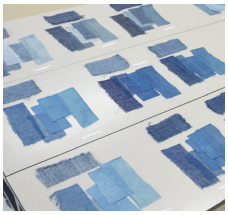
幾度となく
繰り返される混沌は
“わたし”なのだろう

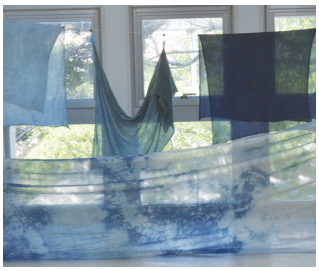
卒業・修了研究　中間報告会の様子

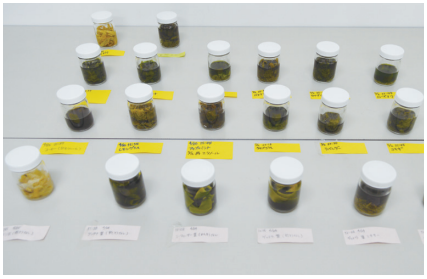










平成 30 年度　卒業・修了展
琉球大学 教育学部 美術教育専修・教育実践学専修
大学院 教育学研究科 美術教育領域

< 展示 >
会期：2019 年 2 月 1 3 日（水）～ 2 月 1 7 日（日）
会場：琉球大学研究者交流施設・50 周年記念館
< 図録 >
編集：美術教育専修 卒業・修了展実行委員会
印刷：（株）プリントパック
発行：琉球大学教育学部 美術教育講座
2019 年 2 月　300 部